



為石小学校の合言葉 「ためし 最高! ~地元で学び 地元を活かし 地元とともに行動する子ども~」



学校だより

○楽しく めあてをもって しっかり学ぶ
○正しく めあてを しっかり守る
○たくましく めあてに向かって しっかり鍛える



ためし



令和7年10月27日号 文責 上久木田 雄二

多様性の科学

愛読している「内外教育」（令和7年10月7日号・巻頭言）に興味深い話題が掲載されていました。

題名は標記のとおりです。引用します。

（学生数約3万人の）カンザス大学の学生は選択肢が多く、結果的に自分と似ている人と交流する機会が多くなる。小規模大学では、選択肢が少ない分自分と異なる人々とつながる必要性が高く、かえってネットワークの多様性が高まる傾向になる。

（尚絅学院大学名誉教授 合田隆史氏）

私は、多様性は多数の人がいるからこそ成立する考え方だと思っていました。しかし、研究者の調査によれば、逆だということです。

大人数の中では、人は自分と似ている人を探し出すのは簡単だということです。

逆に、少人数の中では、自分と似ていない人とも交流せざるを得ず、結果的に多様性が高まるという解釈です。

私はこの記事を読んだときに頭に思い浮かんだのが「SNS」です。

SNSは世界中の人を相手にしていますので、数えきれないくらいの人と交流ができます。

以前の私は、世界中の人を相手にしていることが多様性なのではないかと思っていました。

よくよく考えると、その大多数はフィルターバブルでつながった「似ている人」の集まりに過ぎないのです。

SNSがもっと閉じられた社会で、数名の集まりであるのなら、「似ていない人」の考えを目にする確率が高くなります。

今の子どもたちのコミュニケーション能力の低さに危機感を持つ人が教育界にはかなりいます。

少子化で選択肢が少ないのに、自分と異なる人々とながれない

子どもを良く見かけます。自分と異なる考えを敵ととらえ攻撃的になる子どももいます。

前述の記事は、多様性の本質を見極めて教育をなささいという示唆であると私は考えています。

HPはこちら



二次元コード読み取り 「カラー版は、ホームページでご覧いただけます。」

